

アムールスカヤ通り

レーニン通り、チェホヴァ通り、サハリンスカヤ通りとエミェリヤーノヴァ通りでできた正方形を想像すると、この正方形の真ん中お通る線はちょうどアムールスカヤ通りです。モンゴル語で“アムール”という言葉の意味は“穏やか”です。

賑やかで忙しい中央の道よりアムールスカヤ通りのほうが比較的静かです。

戦争後ソ連国の極東と他の地方から大衆転居が行われました。その大衆転居の結果としてユジノ市民はどのように形成されたか、アムールスカヤ通りは例解出来ます。

チホオケアーンスカヤ通り、クリーリスカヤ通り、オストロブナーヤ通りも例解として使用が出来ます。

1946年1月町は建設中でした。公共事業も発達されてました。アムールスカヤ通りの道路は砂利で舗装されました。設計会社の努力で町の建設関係の課題は成功に解決されていました。道の再建、町の建築の区画整理関係の課題も決定されていました。

あの時の住宅地域には日本時代に建てられた軽い2階家しかありませんでした。

1949年にアムールスカヤ通りとチェホヴァ通りに砂利舗装作業が終了されました。

1950年代にアムールスカヤ通り135番にはお寺が位置していました。

1963年にアムールスカヤ通り、チホオケアーンスカヤ通り、ユージナヤ通りの住宅地域の暖房システムの設定作業が終わりました。市民間長の命令で町の中にあった会社の社員は1週間に2回自分の仕事を1時間早めに終わって、住宅の建設、道路の再建作業、歩道の建設などの作業に手伝うことでした。町は碁盤の目のような間取りを持っていました。町自体は鉄道で2つの部分に分けてありました。東の部分には大きな住宅地域があり、西の部分のほうが比較的狭かったです。

1947年9月1日にアムールスカヤ通りでは教育専門学校が開校されました。この専門学校には教室が三つありました。学生の人数は100人でした。

アムールスカヤ通りの歴史はユジノ市の町から分けられないです。アムールスカヤ通りは町と一緒に発達しながら町と一緒に美しくなってきました。

救急医療扶助病院の歴史が1946年に始まりました。同年に第1番病院の枠で救急医療扶助病室が開院されました。1946年4月23日からユジノサハリンスク市の救急医療扶助のステーションが日本時代から残っていた古くて狭い建物に位置していました。あの建物に中庭が付いていました。この中庭にはガレージ、3台の車の駐車場、ボイラー、倉庫などがありました。救急病室には暖房も水道も付いていましたが、下水道が付いていなかったです。この救急病室で働いていた医者的人数は5人だけでした。看護婦の人数は16人でした。1966年に救急医療扶助病院のために医療施

設に合わせられた新しい2階建ての建物が建設されました。この建物の中には診療室も薬屋もありました。救急病室はセントラルヒーティングのシステムに連結されました。中庭はアスファルトで舗装され、救急車のガレージも5つありました。病室の医療職員は11人でした。現代、救急医療扶助病院は前と同じ所に位置していますが、この建物はまた再建されて、広くて、医療標準に合っています。医療職員の人数は86人であり、一年中無料で6万5千人の患者に治療を与えています。

ユジノサハリンスク市は強い科学的習慣を持っている町です。こちらには極東で有名な研究所、設計事務局などがあります。

2002年7月2日にアムールスカヤ通りとハバロフスカヤ通りの交差点でサハリン・ニピ・モルネフチ設計研究所が会所されました。この研究所は1938年に設立されました。天然ガス・石油採掘関係で科学的な研究をする極東で唯一つの研究所があります。

ユジノサハリンスク市はサハリン州の首都なので、こちらには軍事関係施設も位置しています。町の中には消防署が3ヶ所あります。1970年アムールスカヤ通りで消防署の事務所が先に建設され、1971年に消防署自体が建てられた後ユジノサハリンスク市消防署の歴史が始まりました。現代、この消防署はサハリン州におけるロシア連邦民間防衛賞緊急事態コントロールセンターに改組されています。このセンターはロシア国の消防システムの一部であり、非常事態管理署のシステムに入っています。非常事態管理署の一緒の線で0-51救出サービスが設立されました。このサービスの主な課題は次です。

- ・サハリン州で起きる非常事態に対する戦力又設備資料を管理すること
- ・救出サービスの統一電話番号（112）の電話に出ること。非常事態情報に対して反応すること（消防署通信の電話番号-01）

1966年に消防署の事務所には消防技術展覧会が開会されました。現代この展覧会は歴史のホール、消防設備が展示されるホール、消防をテーマにしたビデオ上映室を含めています。

市民の生活のレーベルの上がりにより、町の中で銀行のネットが作成されました。多くの銀行はアムールスカヤ通りに銀行の支店を置きました。1993年7月からアムールスカヤ通り53番にダリネヴォストーチヌィー（極東）銀行が位置しています。1990年よりアムールスカヤ通りではオハバンク銀行も位置しています。他の銀行の支店もアムールスカヤ通りに置いてあります。アムールスカヤ通りとコムニスチーチェスキー通りの交差点ではロシア連邦中央銀行の支店が営業しています。この銀行は自分のお客さんに色々なクレジット・プログラム又は銀行サービスをあたえています。

ユジノサハリンスク市は植樹の多い町です。森林の山に囲まれています。ナナカマドの木も梨の木もあちらこちらで見えるピンク色の桜の木も町の顔を飾っています。旭

川市とユジノサハリンスク市の姉妹都市関係をテーマにした面白い公園もアムールスカヤ通りに位置しています。この公園の中では日本の建築伝統によって建てられた東屋があります。この東屋は姉妹都市の交流の35周年記念日に日本側からの贈り物です。

サハリン州の首都であるユジノサハリンスク市はサハリン州の教育システムの中心です。東屋のある公園の近くには第1番中学校が位置しています。この学校の歴史は1945年10月10日に始まりました。日本時代から残っていた学校の古い建物に第1番小学校が開校されました。特別な教育のある教師はほとんどいなかったため、兵士も教師として使用されていました。学校には電気も付いてなく、ろうそくと灯油ランタンで照明されていました。学校を温めるように各教室には鉄鋼のストーブが置いてありました。新しい920人席の学校の建物は1966年1月15日に開校されました。学校の中に地理学、物理学、文学などの教室がありました。第1番学校の卒業者の中には後で自分で教師になった人もいます。

ユジノサハリンスク市の構造基盤も発達しています。毎年ますます現代の見た目を持ち市民の要求に合わせた貿易センターの数が増えてきています。アムールスカヤ通りも発展しています。この通りに位置している食料品店、美容院、薬局、花屋、航空会社、喫茶店、ホテルなどが市民に上質のサービスを与えています。

アムールスカヤと通りとポグラニーチナヤ通りの交差点で2009年にベリョーズカ貿易センターが開店されました。現代のデザインで建てられたこの建物はこの地区の飾りだと言えます。

ユジノサハリンスク市はもうますます都会の見た目を持つようになっていきます。アムールスカヤ通りも町の中心の通りではないのに、全体の町と一緒に生活をしながら、町と一緒に運命を持っています。